
リハビリテーション天草病院だより

2021年10月

No.100



発行 埼玉県越谷市平方343-1／(医)敬愛会広報委員会

当院広報誌創刊100号目を迎えて

医療法人敬愛会理事長 天草 大陸

■はじめに

当院開設(1976年)当初は不定期発行でしたが、その後、年に4回(春・夏・秋・冬)の定期発行を続けて参りました当院広報誌「リハビリテーション天草病院だより」も今号で100号となりました。100号を振り返り、創刊以来、全くぶれていないと信じています各号に共通する記事内容から当院のこれまでの有り様を簡単にまとめてみました。

■一貫して回復期リハビリ病院を追求

病院(病床)機能は、急性期、回復期、慢性期に大別されますが、当院は、急性期を経過した脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等の患者さんに対して、ADL(日常生活動作)の向上や在宅復帰を目的としたリハビリを集中的に提供する機能の充実に日々努めて参りました。特に、これからも従前に増して急性期病院との親密なハイレベルの連携に力を注ぎます。

■一貫して当院の運営基本方針を追求

当院の「運営基本理念」は、患者さんに安心・安全・満足を提供し、職員を含めて誰からも敬愛される病院を創造することにあります。患者さんに対する「運営基本方針」は①明るい快適で安全な療養環境の提供(含:良質な接遇)②学問的根拠に基づいたリハビリ医療の提供③あらゆる分野においての情報提供を掲げております。日常臨床において理念等が忠実に実行されているかどうか絶え間無い検証が必要です。当院では、第三者評価として「病院機能評価機構」や「ISO」に依頼し実行していますし、今後も慢心することなく努力致します。

■当院入院のセールスポイントの推進

当院では脳卒中の患者さんの入院割合が80%を超えますので、ここでは脳卒中に絞って記述します。脳卒中リハビリ4本柱として以下のことに力を入れております。

①ボバース概念に基づく神経学的リハビリの提供(ボバース概念とは、リハビリ手技法の一つで、当院では開設以来この手技法を取り入れ他の療法よりも機能回復に大きく寄与していると考えております。実際、アウトカム評価＝治療成績では全国平均よりも大幅に上回っています)

②摂食嚥下療法の提供(医師、歯科医師、言語聴覚士(ST)、管理栄養士、看護師、歯科衛生士、レントゲン技師等々の多くの職種が関与します。当院では鼻腔や胃ろう栄養であった患者さんが口から食事が出来るようになった割合が50%を超えています。実際、35%を超えているリハビリ病院は全国で6%程度とされています)

③高次脳機能障害治療の提供(別の機会に説明します。なお、外来でも予約制で実施しています)

④医科・歯科連携のリハビリの提供(本誌95号をご参照下さい)

■結びに

外来リハビリについても触れたかったのですが紙面の都合で割愛します。

今後の病院経営は、人口減少・少子高齢化で激変する環境への対応が必須となります。基本方針を守りつつ頑張り抜きます。

訪問リハビリの利点

訪問リハビリ担当 作業療法士 青木 花奈

「家に帰っても、前と同じように生活できるだろうか」

入院中はリハビリに専念し、退院後の生活に備えて訓練に取り組まれた患者さんも、退院が間近になるにつれて、ご自宅へ帰ることに不安を感じる方もいらっしゃるのではないかと思います。

ご自宅に退院された方からは、「病院のリハビリで練習したけど、退院後は一度もやっていなかったから、やり方を忘れてしまった」というお話を、聞くこともあります。

**** 訪問リハビリの利点 ****

＊ ご自宅の環境に合わせた リハビリが受けられます ＊

訪問リハビリは、利用者のご自宅でリハビリを行うサービスです。療法士が、車でご自宅にお伺いします。「段差の昇り降りが大変」というご相談があれば、その場で段差を確認し、実際の動作を見させていただき、動作方法の助言や指導を行います。その際、手すりの設置など、環境調整の提案をさせていただくこともあります。

生活上の困りごとに対して、ご自宅の環境に合った方法でリハビリを進めていくことが出来ます。

＊ 主体性を尊重します ＊

当院の訪問リハビリでは、利用者の主体性を大事にしています。自分で着替えがしたい、

料理がしたい、仕事がしたいなど、したいことは人それぞれです。また、障害の状態、ご自宅の環境、生活スタイル、どれも他の人と同じではありません。

リハビリは、ご希望をお聞きして計画書を作成し、利用者・ご家族へ説明を行い、同意をいただいたうえで実施します。

＊ 個別リハビリを、 特に希望されている方に最適です ＊

60分のリハビリが週2回利用出来ます。さらに今年4月から、退院後3か月間は、60分のリハビリが週4回まで利用出来るようになりました。退院したばかりで、ご自宅の生活に不安がある方は、ぜひご検討ください。

※介護保険の利用限度額や、当院訪問リハビリの受入れ状況によっては、ご希望の回数の訪問が困難な場合もございます。詳細はお問い合わせください。

＊ 介助方法の助言を行います ＊

ベッドや車椅子への移乗、食事時の姿勢、排泄や着替え、入浴の方法など、介助のしかたについて助言、指導を行っております。また、介護をする上での悩み、ストレスなど、遠慮なくお話ししてください。関係機関と協力して、解決に努めてまいります。



当院の訪問リハビリの利用をご希望される場合は、主治医の先生と担当のケアマネジャーにご相談して頂くようお願いいたします。

「ありがとう」

春日部市 石塚 忍

入院時のことは、今でもハッキリ覚えています。2021年3月31日、工作中で昼食の時でした。突然、意識が途切れかけ、ガクンと電源が落ちたように視界が悪くなり、酷いめまいと頭痛、全身が重く右手足が自由に動かさなくなっていました。何が起きているのか全く理解出来ない状況でした。疲れているのかな、横になって休めば治るかな…なんて、そんな楽観的な事を周りに話していましたが、同僚の方が異常事態に気づき救急車を呼んでくれて、近くの千代田区の病院へ緊急入院となりました。

入院後、病院の医師から高血圧で脳内出血となり、そのせいで右半身麻痺になってしまったと告げられました。確かに数年前の健康診断から血圧が高いと警告されていましたが、その当時は、ほとんど気にかけず不規則な食生活を続けていたのを大変後悔しました。ですが医師から、リハビリである程度回復できるとお聞きし、これで頑張るしかないと決意しました。

およそ2週間で、容態も安定してきたのでリハビリ病院を提案され、そこで転院してきたのが天草病院でした。実家（春日部）の知り合いで天草病院から退院し、元気になった方がいて、良い評判を聞いていました。車椅子がないとトイレにも移動できない今の自分を見返し、以前のように手足を動かせるのだろうか、仕事にも復帰できるのだろうか、そんな焦りと不安でいっぱいでした。入院してみると今までの憂鬱な気持ちが吹き飛ぶくらい明るく、元気で頼もしいスタッフの方々に

囲まれていました。療法士の先生は、手足の動作を少し見ただけで悪い個所を即座に見極め、素人の私にも解りやすいようしっかりと原因と治療内容を教えてくれて、安心して治療を受けることができました。それに気さくで楽しい先生ばかりで、色々な話で笑い合ったりしてリハビリ中ということを忘れてしまうくらい楽しい時間を過ごせました。そして何より、先生方に共通している事として、限られたリハビリの時間の中で出来るだけ治療してあげたいという一生懸命さが会話や行動から伝わり、私も出来るだけ応えてあげたいと熱意が生まれ、それがリハビリへの大きな活力源になりました。看護師の方々も入院時は何をするにも介護が必要な状態でしたが、私の回復具合を見て自力で出来るところはアドバイスしてもらい、身の回りの事は自然と自立できるようになりました。私達がご飯を食べている時もお風呂に入っている時も寝ている時も平穩に過ごせているのは、看護師さんが安全状態の管理を徹底し、しっかりと保護してくれているからだと思います。様々な症状の患者がいて、それぞれ適切に対応することは大変ですが、苦勞する様子など一切見せず明るい笑顔で接してくれます。こういった様々なスタッフの方々が一丸となり「医師と私」といった個々の関係だけでなく「天草病院と私」といった大きな関係が安心を感じさせ、治療に専念できる環境が構築できているのだと思います。

入院当時は、立ち上がるのも数歩進むのもやっとの状態でしたが、2カ月程度で杖や装具なしでスタスタと何キロも歩けるようになり、細かい動作はまだまだですが手腕もそれなりに自由に動かせるよう回復してきました。まだ退院の日程は決まっておりませんが、会社からリモートワークや時差出勤で復職できるよう準備を進めてくれております。それ

までに長距離でも疲れにくい歩行の仕方や更に細かな指先の動き、自然に見える身のこなし方が出来るよう目指しております。ここまで回復の兆しが見えてきたのも天草病院の皆さまのお陰です。天草病院で治療が受けられて良かったです。本当に、本当にありがとうございました。

（投稿日 令和3年6月10日）

「天草病院での日々」

草加市 神谷 弘志

随分長い間、草加に住んでいながら聞いたことのないリハビリテーション天草病院という名前を聞いたのは越谷市立病院でした。今まで入院するような病気はしたことなかったが、今年の5月に脳梗塞になり、立て続けに同じ病気で三回目の入院でした。以前の二回は後遺症も残らず一週間ほどで退院したが、三回目の今回、一番症状がなく寝てしまったのだが、一番重く後遺症が出ていたので脳梗塞は怖い病気だと思いました。以前の二回はお世話になる事はなかったのだが、今回は後遺症が残るためリハビリテーション天草病院にお世話になる事となりました。

リハビリテーションの病院は初めての経験でもあり、連れてこられた時は何も分からない状態で当初は自分自身ではもう治る所は無いような感じであったが、先生及び理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の三科のリハビリスタッフの方々に熱くご指導頂き、一か月くらいすると、頭の痛みなどが無くなるなど視界がクリアになっていくことを感じる事が出来、残りはいかに自分のレベルを以前のものに戻すかに集中できたと思います。日々の生活は厳しくも楽しく、自分のレベルを上げるものだと思えば長く平凡な毎日違う

ものに思えてきています。自分のレベルが上がってくると入院生活のあまりの快適さにまだ入院していいのか葛藤続きではありましたが、快適とは言え3か月の入院期間は長かったですが、その分熱い指導をして頂いたおかげで病気になる前とほとんど変わらない状態までもっていく事ができました。また、日々の生活も看護師の皆さんや掃除の皆さんが明るく励ましてくれていたから耐えられたと本当に感謝しています。

最後になりましたが、退院も近づいており、職員の皆様長い間大変お世話になりました。本当に有難うございました。

（投稿日 令和3年9月27日）

感謝の声（投書箱より）

思えば天草病院にお世話になった時には、足は棒のように手はしびれた状態で入院し、最初は仕事も車も好きなゴルフも出来なくても歩くことさえ出来ればと思っていました。毎日のリハビリと温かい看護師さんの励ましで1日1日と回復し、これなら、あれもこれも出来ないだろうが、出来るかもに変わり夢のようでした。退院後もリハビリの先生方、看護師さんの助言を胸に生活していきます。最後にリハビリスタッフの皆さん、看護師さん、ありがとう。

（A病棟 入院患者様より）

リハビリスタッフ、看護師さんをはじめ、全ての従事者様に感謝致しております。チームワークの良さと暖かい言葉、一人一人に優しい態度で働く姿に感動しました。患者さん、私も安心して治して頂くことができました。本当にありがとうございました。

（B病棟 入院患者様より）

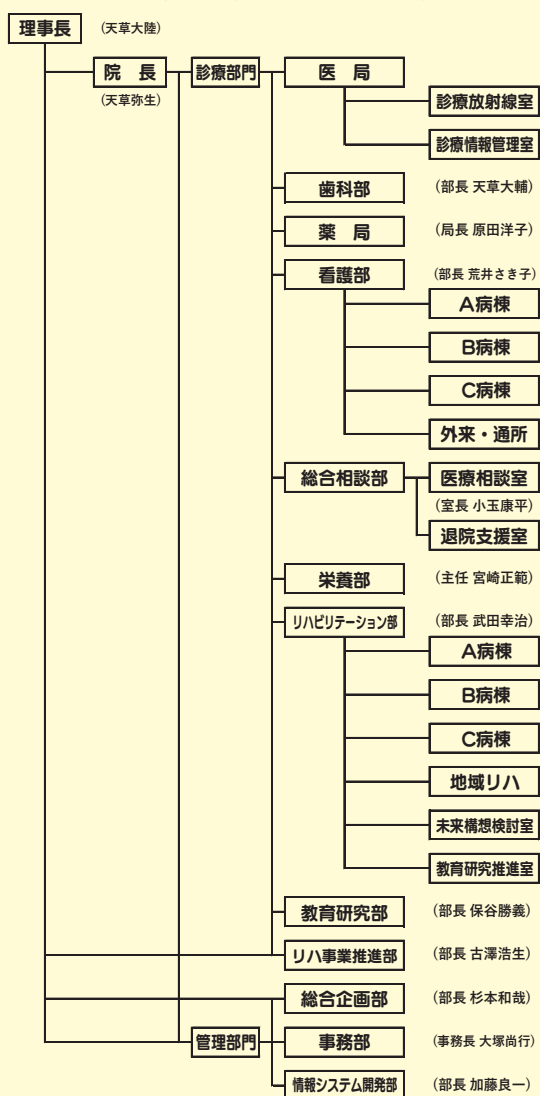
病院組織図と職種別職員数

リハビリテーション天草病院 事務長 大塚 尚行

当院は、昭和51年の開院当時からリハビリテーション医療に注力し、今年で46年目を迎えます。日々リハビリの質の向上を目指し研究活動にも力を入れ、現在はリハビリスタッフも施設基準を大きく上回る150名超を配置

するまでに至りました。回復期リハビリ病院は、各職種が専門性を発揮し、緊密な連携を図るチーム医療に積極的に取り組んでおりますので、ここで現在の当院の組織体制と職種別職員数をお示しします。

2021年度 リハビリテーション天草病院組織図



職 種	人 数	
	常 勤	非常勤
医 師	10	13
うち (リハビリ専門医)	(3)	—
(リハビリ認定医)	(1)	—
(神経内科専門医)	(5)	—
(総合内科専門医)	(4)	—
診療放射線技師	1	5
歯科医師	1	5
歯科衛生士	2	2
薬剤師	4	1
看護師	71	5
准看護師	1	1
看護補助者 (うち介護福祉士)	31 (29)	0 (0)
社会福祉士 (相談員)	4	2
管理栄養士	4	0
リハビリスタッフ	156	2
《内訳》理学療法士 (PT)	(71)	(0)
作業療法士 (OT)	(63)	(0)
言語聴覚士 (ST)	(22)	(2)
事務職他	16	2
S E	2	0
合 計	303	38

※専門医は重複取得あり

老健「通所部」広報誌のご紹介

介護老人保健施設シルバーケア敬愛 通所部デイケア通信編集係

当老人保健施設通所部ではデイケア通信として「ほほえみ」を毎月発行しています。今月号で240号となりますので、創刊以来20年経ちました。この広報誌はデイケア(通所リハビリテーション)利用者の親睦を図り、友情を深めるためのもので、色々な情報を共有し、その時々々の社会の話題等を提供するコーナーも

設けています。利用者の個人情報も多く含まれていますので、利用者の皆さんのみにしか配布しておりません。

紙面構成は、利用者の活動に関することと、デイケアに従事する職員の話題提供に大別出来ます。今号では、利用者から好評の職員の話題提供の二つ(9月号掲載)をご紹介します。

リハビリ部より「運動・生活活動・作業」

厚生労働省が65歳以上に必要な身体活動量の基準を、週に10METs(メッツ)としました。時間に換算すると、横になったままでなければどんな動きでもよいので、毎日40分行うこととしており、ウォーキング(4.3METs)に当てはめると週3回行うことになります。こうなると、少し大変と感じられるかもしれませんが、身体活動には運動だけでなく生活活動も含まれます。

血洗い(1.8METs)洗濯(2.0METs)孫と軽く遊ぶ(2.2METs)植物の世話(2.3METs)座ってラジオ体操(2.8METs)などウォーキングせずとも必要な身体活動が補えます。

リハビリテーションの対象になる方は、運動や生活活動がしたくても出来にくい状況にあります。作業療法で用いる“作業”は、作業そのものが目的や価値となるだけでなく、作業を介して目的が達成したり価値のあるものを見出したりすることが出来ます。

本を読むのが億劫でも、お孫さんに本を読み聞かせるのは楽しいというような事はよく起こります。そのような作業を、利用者の皆様と一緒に見つけていきたいと思っています。

(リハビリ部 通所部担当 作業療法士 清水 学)

ナースのひとりごと「ブレークスルー感染…って?」

ワクチン接種をした後でも感染する事は知られていますね。新型コロナのワクチンの場合、2回目接種後に2週間ほどで十分な免疫の獲得が期待されています。それ以降に感染した場合を「ブレークスルー感染」と呼んでいます。免疫獲得後に感染する理由は、ワクチン接種後は時間が経過すると、血液中の抗体が減少していくためです。感染後は免疫機能が働き、直ちに抗体をつくりますが感染や発症には間に合わない場合があります。新型コロナウイルスは鼻や喉の粘膜で増殖、呼吸器粘膜を傷害して発症します。しかし、抗体は肺の中に滲み出ているため、肺炎を阻止し重症化を防ぐ効果があります。ワクチン接種を2回済んでいるからといって、時間の経過とともに抗体は減少していきますし、人によっては、感染に対し必要な抗体量をつくりだせないかもしれません。新型コロナが流行している状況では、油断できないことは確かです。いざという時に自身の免疫機能を働かせられるように栄養と休息と体力を十分に蓄えておく努力が重要だと思います。少しでも、体調が思わしくない時などは、無理せずに休養をとり体調を整えて、コロナに対抗できる身体づくりをしていきたいものですね。

(通所部担当 看護師 長濱 裕佳里)

編 集 手 帳

＊本誌が皆様方のお手元に届くころまでには決着がついているかもしれませんが、衆議院議員選挙が10月19日公示、同31日投開票と決定しました。

＊今回の選挙では、新型コロナウイルス対策や経済政策が主な争点になります。自民党が掲げる「新しい資本主義」については、その内容を国民に分かりやすく丁寧に説明してもらいたいものです。又、立憲民主党が掲げる「時限的に消費税率5%へ引き下げ」、「年収1千万円程度以下の個人の所得税を時限的に免除」、「沖縄の米軍飛行場の移設中止」などの安全保障問題、これらが口先だけのものなのか、果たして我が国の利にかなうものなのか、はたまた共産党との連携等々について徹底的な議論が必要かと思います。

＊よく選挙では「〇〇党に有利な追い風が吹いている」などと「風」が話題になります。

驚くことと言うか、恐ろしいと言うか、その「風」の吹き具合が投票結果に決定的に反映されます。「風」は一時的なものです。私達を取り巻く環境が一時的に変化したことで国の未来を託す政治家（政党）を選んで良いものかどうか、いつも疑問に感じています。

＊一体、人工的な「風」は、どういうメカニズムで発生するのでしょうか。決して自然発生でないことだけは確かです。私は、何か源になる原因があることは否定しませんが、その原因をメディアが脚色したり誇張するなどして恣意的に報道し、世間を煽っている、洗脳しているのではないかと思います。したがって、私は、一時的な「風」の影響を受け決断し投票することは、未来・将来において取り返しのつかない後悔として消え去ることがない事態になることを危惧します。政党の理念や公約や政党間の論戦などを通じて、中・長期的な視点から投票先を決めたいものです。

(理事長 天草大陸)

当法人施設が取得する第三者評価認証

患者さんが病院を評価するには、その病院自身の「自己紹介」も参考になりますが、第三者の評価も重要です。当院では「病院機能評価機構」と「ISO」の認証を取得してます。

なお、併設の老人保健施設でも「ISO」の認定を受けています。



表紙のことば

この作品は、少人数での患者様と「フェルト羊毛で作る可愛い動物たち」を作成しました。細かい作業でしたが、一針一針に心を込めて打ち込み作り上げ、可愛いフェルト羊毛のリスが出来ました。作品の飾り付けや彩にもこだわりました。少しでも皆様の癒しになれば幸いです。

(C病棟スタッフより)